

佳作

私のまちの未来

山形県東根市立第三中学校

2年 奥山 来美

皆さんは、自分の住んでいる町にこれからも暮らしていきたいと思っているだろうか。私は、そこまで住み続けたいとは思えなかった。

私は、山形県の東根市という市に住んでいる。この東根の良さは、恵まれた自然にあると思う。お店より圧倒的に山や森、畑で埋め尽くされているのだ。私はそれが不便でならないと感じている。だから、私は将来、もっと発展している県に住みたいと考えていたのだった。

今世界は、人口が増えている。しかし、日本の人口は減っているのだ。そして日本は、少子高齢化社会という危機的状況にある。少子高齢化社会とは人口構成のうち若年齢者の割合が減少する「少子化」と高齢者の割合が相対的に増加する「高齢化」が同時に進行している状態のことだ。この現状を少しでも理解し興味を持つために私たちの学校では先日、ある活動を行うことになった。この活動は、SDGsの観点で、まちづくりをするというものだった。ゲームルールは、市役所職員と住民に分かれ、自分が行いたい取り組みを行うために、渡されたお金を考えながら使い、全員の目標である「よりよい町」をつくることだ。私は、まちづくりをすることは市役所の人だけが案を出し行っていくものだと考えていたため、はじめはあまり乗り気ではなかったが、ゲームをした。

ゲームで、私が感じたことは、まちづくりが想像を遥かに超える難しさだったことだ。カードゲームでも苦戦してしまうのだから実際にまちづくりすることはもっと難しいのだろう。その中で特に難しかったことは人口を増加させることだった。人口を増やすためには若者にここに住みたいと感じさせる取り組みをしなくてはならない。しかし、その取り組みを行うには多大なるお金が必要だった。もし、計画で人が増えず市が扱えるお金だけがなくなったらどうだろうか。市は当たり前だが、人口を増やすだけの取り組みをしているわけではない。よって、お金がなくなれば経済面を潤す取り組みや自然環境を守る取り組みも行えなくなるのだ。

そしてこの取り組み一つ一つにSDGsとのかかわりがある。例えば、自然環境を守る取り組み。これは、SDGsの目標の15番目「陸の豊かさを守ろう」を達成することができる。また、学校給食の無償化をするなどの取り組みでは、2番目の目標「飢餓をゼロに」を達成することができたりとまちづくりをしているうちにSDGsの目標も達成させることができ、自分の町も世界に

も良いのだ。だが、この反対も考えられる。計画が失敗すれば、前記のとおり取り組みを行えない。よって今後SDGs目標が達成されるのはもっと先になる。このようにまちづくりは難しいのだ。そして、私がゲームを通し感じたことがもう一つあった。それは、まちづくりが市役所の人だけでなく町の住民と協力し合いながらするものであるということだ。私は最初に東根市の良さは、恵まれた自然にあると書いたがその自然によって、さくらんぼをはじめさまざまな果物が恩恵を受けている。しかし、近年の異常気象によって野菜や果物等の農作物の栽培が難しい状況が続いていくと予想される。大きなショッピングモール等を誘致し目先の発展をしたところで、数十年後はどうなっているだろうか。この町の良さ、恵まれた自然をなくさないために私たち若い世代もSDGsの目標が達成されるように率先して行動していかなければならないのではないだろうか。このことから私は大変で難しいかもしれないが「自分も将来まちづくりをできるのではないのか」と思った。

誰かがではなく、私自身がこの東根市の未来を築き上げ「住みたい」「ここで生活し続けたい」と感じる町にしていきたい。私はその日から前よりもこの東根市に住んでいたいと思うようになった。